

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イノバス上津アベニュー	階数	地上15F
建設地	名古屋市中区橋一丁目603番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	126 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年7月 予定	評価の実施日	2026年7月28日
敷地面積	430 m ²	作成者	
建築面積	252 m ²	確認日	2026年7月31日
延床面積	2,513 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率チャート	標準計算 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法 0 46 92 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.8 音環境 熱環境 光・視環境 空気環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3 機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2 生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4 建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0 水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0 地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
伏見通(国道19号線)、大須通へは400m程度で出られ、名古屋市営地下鉄名城線 上津駅へ600m程度(徒歩10分以内)の位置にあり、交通の便が良い。	
Q1 室内環境 採光・通風をできる限り確保し、居住性を高めるように配慮。 床スラブは、約220mm~260mmの厚み確保し、階下への衝撃音の伝わりを軽減。また、強度を落とさずにスラブ自重を軽減。天井に小梁のない広い空間が確保できるポイドスラブを採用。 建材はF☆☆☆☆を使用。	Q2 サービス性能 共用部は間接照明を利用し、内装を計画。 TV共聴設備は新4K・8K対応。 空調・給排水配管を耐用年数の長いものを使用。
Q3 室外環境(敷地内) 顔認証システム、侵入防止格子等により防犯性に配慮。 駐車台数に考慮しつつ、道路沿いに緑地を設ける様配置。	
LR1 エネルギー 外皮性能UA値0.6を各住戸クリア、断熱等級5の断熱仕様とし、一次エネルギー消費量等級6をクリアできる様にした。 共用部、外構の照明、非居室はLEDを使用し、消費エネルギーの低減に配慮。	LR2 資源・マテリアル 節湯・節水機能を充実し、資源の保護に配慮。
LR3 敷地外環境 騒音等 法令を遵守し、地域環境に悪影響を与えないように配慮	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

イノバス上前津アベニュー

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。